

(別紙2)ジェンダーサミット10概要(1)



日程：2017年(平成29年)5月25日(木)、26日(金)

会場：一橋講堂(千代田区一ツ橋2-1-2)

テーマ：ジェンダーとダイバーシティ推進を通じた科学とイノベーションの向上

目指すところ：ジェンダー視点の有無は、科学技術だけでなく、政治や経済、社会や文化等あらゆる局面でダイバーシティを左右し、その先に生まれるイノベーションの質を大きく変える。それを科学的かつ実証的、かつ具体的に議論しながら、現代世界に果たす科学技術の役割と責任を再検証し、日本を含むアジア全体の提言としてまとめ、広く世界に発信する。

主要(フレナリー)セッションテーマ ※使用言語：英語(日英同時通訳有)

- 1.ジェンダーの歴史と未来
- 2.アジアにおける深刻な問題への女性の貢献
- 3.ジェンダーに基づくイノベーション
- 4.科学の社会的責任

サブセッションテーマ(ワーキンググループで活動中) ※使用言語：英語

- 1.中等教育における女子学生の文理選択の健全化
- 2.女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利点の明確化
- 3.ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示
- 4.スポーツにおける身体とジェンダー・サイエンスの推進
- 5.男女共同参画推進のための研究者情報の整備と活用
- 6.男性・男子にとってのジェンダー平等

プレナリーセッション

1. ジェンダーの歴史と未来

登壇者: 浅川 智恵子 (IBMフェロー)、山極 寿一 (京大)、梁其姿 (香港大学)



浅川 智恵子

⇒ 視覚障害を生かしながら革新的な科学技術の開発を行い世界を変えてきた事例の講演、ジェンダーの歴史を振り返り今後のジェンダーの方向を考えるための講演、動物の進化を考えた場合の男女の役割のあり方や今後の方向を示す講演をいただく。これら3件の基調講演をもとに、本GS10が従来からの蓄積の上に何を積み上げることができるのか、立ち位置を明確にする。



山極 寿一



梁其姿

2. アジアにおける深刻な問題への女性の貢献

登壇者: 阿部 玲子 (オリエンタルコンサルタンツグローバル)、タン・ヌウェ (ヤンゴン大学)、セン・مام (カンボジア王立農科大学)



阿部 玲子

⇒ 新興国が直面する貧困、飢餓等の深刻な課題に取り組む女性研究者や技術者から自身の活動内容について、その背景なども含めて講演いただく。これを通して、ジェンダーを含む多様な視点がグローバルな課題の解決に不可欠であることを共有する。



セン・مام

プレナリーセッション

3. ジェンダーに基づくイノベーション

登壇者: ロンダ・シービンガー(スタンフォード大学)、ヒー・ヤング・パイク(韓国ジェンダーイノベーション・センター)、楊雪燕(西南交通大学)ほか



ロンダ・シービンガー

⇒「Gendered Innovations」という概念を最初に提唱したLonda Schiebinger氏を座長として、これに取り組む複数の研究者より具体的応用例などについて紹介いただく。プログラミングを含めた科学技術と社会技術のジェンダー研究について、社会の課題を広く捉えたイノベーションについて議論する。



楊雪燕

4. 科学技術の社会的責任

登壇者: 原山優子(CSTI)、フィリップ・キャンベル(Nature)、キンレイ・ツェリン(ブータン国農林水産省)、ロウェナ・ゲバラ(フィリピン科学技術省)ほか



原山優子



フィリップ・キャンベル

⇒「Nature」のPhilip Campbell氏より、「科学と社会の間の信頼醸成のため、ジャーナリズムはどういう役割を果たすことができるのか」について話題提供をいただく。また、科学は研究成果を以て、実社会に如何に貢献しているのか、貢献を如何に最大化できるかという問題を提起する。



キンレイ・ツェリン



ロウェナ・ゲバラ

パラレルセッション(ワーキンググループ)

① 女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利点の明確化

リーダー: 行木 陽子(日本IBM株式会社 技術理事)



イノベーションの現場へ女性が参画することにより成果をあげている事例を取り上げ、その効果を議論することにより、その利点を探究する。前半は事例報告(および質疑応答)、後半はグローバル企業などからジェンダーに造詣のある方を招いてパネルディスカッション形式とする。

主な登壇者:

ナリニ・ジョシ(シドニー大学)

ゼイン・ズンボーリン(日本IBM)

星野 朝子(日産自動車)



ナリニ・ジョシ

パラレルセッション(ワーキンググループ)

② ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示

リーダー: 藤井 良一(情報・システム研究機構 理事)



欧米及び亞太地域の国々(特に研究費配分機関)で実施されているダイバーシティ推進に係る評価事例を比較検討する。各研究機関における女性教員の増加のための取組・施策についての講演を行うとともに、係る評価手法を吟味し、国および研究費配分機関の評価の指標としての提案を図る。

主な登壇者:

張林秀(中国農業政策センター/中国科学院)

ケリーナ・クレイグ・ヘンダーソン(NSF)

アン・ペピン(フランス国立中央研究所)



張林秀

パラレルセッション(ワーキンググループ)

③ スポーツにおける身体とジェンダー・サイエンスの推進

リーダー： 井野瀬 久美恵(日本学術会議 副会長・甲南大学文学部 教授)



東京オリンピック・パラリンピックを射程におき、セッション前半では、スポーツにおける女性の活躍と社会におけるジェンダー平等との関係を国際比較し、「スポーツ版ジェンダーギャップ指数(GGI)」ともいふべき新たな取組を試みる。セッション後半では、この国際比較の結果をSDGsとも関係づけて、「持続可能」「多様性」といったキーワードのなかで、「オルタナティブ・スポーツ(※)の可能性」や「オリンピック効果」などの「議論と実践の地平」を広げ、2020年日本からの発信を戦略的に考える。この発信の要となる鈴木大地・スポーツ庁長官がコメンテーターを務める。

主な登壇者：

鈴木 大地(スポーツ庁 長官)

井谷 恵子(京都教育大学)

ペソシュニ・ミトラ(ジャドバプル大学)



鈴木大地

※「オルタナティブ・スポーツ

⇒競争のみに特化しない
身体運動

パラレルセッション(ワーキンググループ)

④ 中等教育における女子学生の文理選択の健全化

リーダー: 宮浦 千里(東京農工大学 副学長)



中等教育における女子学生(生徒)の文理選択について、国際比較により、各国の現状の問題について議論する。女性の理系進路選択に関する理論・実践に詳しい専門家より講演いただくとともに、セッション後半では日本における特色ある取り組みのベストプラクティスについて情報を共有も図る。

主な登壇者:

ソノコ・ドロテア・ベリングラス・木村

(ライプニッツ農業景観研究センター)

クレーム・ハーマン(オープン大学)



クレーム・ハーマン

パラレルセッション(ワーキンググループ)

⑤ 男女共同参画推進のための研究者情報の整備と活用

リーダー: 森 初果(東京大学 物性研究所 教授)



男女共同参画を一層推進すべく、研究者情報の活用方法の検討、情報整備に繋げるための議論を行う。さらに、研究者情報を用いたジェンダーを視点とした研究活動状況や知見などを共有し、今後の活動の契機とする。本セッションでは、「データベースをつくる」、「データベースを解析する」の二部構成とする。

主な登壇者:

アンデーシュ・カールソン(エルゼビア)

パク・ヨンア(韓国科学技術評価・企画院/明知大学)

スヴェーヴァ・アヴェドウト(イタリア国立研究評議会)



アンデーシュ・カールソン

パラレルセッション(ワーキンググループ)

⑥ 男性・男子にとってのジェンダー平等

リーダー: 伊藤 公雄(京都大学 大学院文学研究科 教授)



アジアを含む男子の学力低下問題を視野に入れつつ、男性・男子をめぐる教育の重要性についての議論を行う。欧米では、男子の学力低下は大きな問題として可視化されつつあるが、アジア地域ではいまだ十分なデータも存在しない。男性・男子問題という課題を視野に入れることで、ジェンダーと科学技術をめぐって新たな提案を図る。セッション後半ではラウンドテーブルディスカッション形式を導入する。

主な登壇者:

多賀 太(関西大学)

フランチェスカ・ボルゴノビ(OECD)

ウェイン・マルティーノ(ウェスタンオンタリオ大学) フランチェスカ・ボルゴノビ



GS10 の実施体制

Gender Summit 10 の主催・後援

主催



(欧州委員会の委託を受けたNPO)

後援

(国内)

文部科学省 内閣府男女共同参画局 経済産業省 厚生労働省(申請中)
外務省(予定) 総務省(申請中) 国土交通省(申請中) 農林水産省 環境省(予定)
経済同友会 日本経済団体連合会 日本ユネスコ国内委員会
国連ウィメン日本協会 国立大学協会 公立大学協会 日本私立大学団体連合会
全国知事会 男女共同参画学協会連絡会 東京都教育委員会(申請中)

(海外)

欧州委員会

GS10 の協賛機関



パートナー



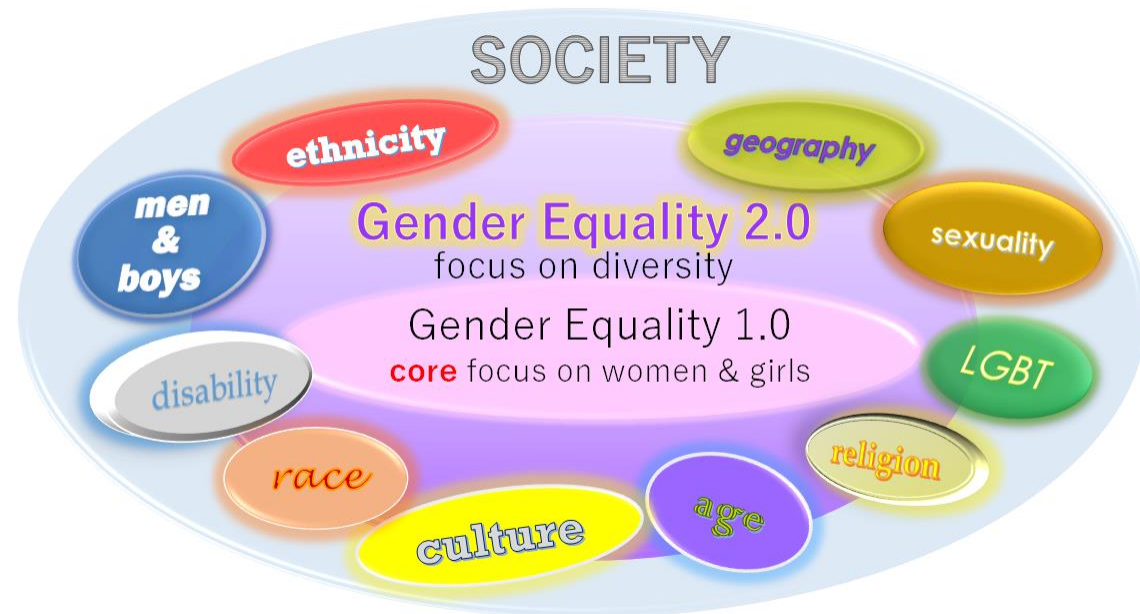
協賛 / 協力



(パール) 中央大学 法政大学 神戸大学 熊本大学 名古屋大学 奈良先端科学技術大学院大学 奈良女子大学
静岡大学 大阪大学 お茶の水女子大学 東京大学 東京工業大学 東京農工大学
東京理科大学 津田塾大学 山形大学 山梨大学 横浜国立大学 早稲田大学
日本農芸化学会 日本MOT振興協会女性の活躍舞台づくり委員会 日物応物男女共同参画連絡会
理化学研究所 日本化学会 日本生態学会 日本工学アカデミー 日本魚類学会
日本植物生理学会 日本数学会 化学工学会 生物化学学会連合 国立高等専門学校機構
カネカ 鹿島建設 日本生命 パナソニック 資生堂 ソーラボジャパン 内田洋行 LIXIL

Gender Equalityは5番目の目標

Gender Equalityを再定義
⇒ Diversityに広げる



国連持続的開発目標 (SDGs) への提言 (2)

ジェンダーですべての目標をつなぐ

